

平成29年度協働事業等に係る第三者評価の実施結果について(詳細)

番号	区分	協働事業等名称	事業実施者		1 評価結論		2 事業について	3 協働の広がり可能性	4 意見交換会を踏まえて	5 まとめ
			(上段：市民、下段：市)	結果	意見					
1		ひろげよう！子育てひろばのわ	ふちゅう子育て応援団連絡会	B	事業の立ち上げ時より課題解決に向けたニーズや目的が双方で共有できており、情報共有を密に行いながら顔の見える信頼関係が構築されている。立場の違いを理解しつつ、市民側の要求に市が柔軟に対応できる体制を整えることで、更なる発展が期待できる。	子育て家庭の孤立防止への取組として、双方が共通認識をもって実施している事業である。事業開始時から参加者数、参加団体数共に増加しており、成果を挙げている。子育てに不安を抱える若い夫婦や市外からの参加もあり、ニーズが高く、今後の継続性や発展性が期待できる。	イベントを通じて団体間の情報共有や市の他部署との連携ができています。参加者の増加を受けて会場の規模を拡大するなど、事業の拡大に積極的である。他の事業者や中間支援機関と連携することで更なる発展が期待できる。	市民と市が役割分担をしながら、それぞれの担当者が熱意をもって取り組んでおり、相互に協力しながら顔の見える関係性を構築している。	協働で事業に取り組むことで単独では解決できない課題解決に繋がっている。事業は子育て世代の直接的な支援につながると共に、参加する団体同士の交流が生まれ、子育て支援を行う団体の中間支援的な役割も果たしている。	
			子育て支援課							
2	協働事業	ちびっ子ふれあい文化祭	府中ちびっ子ふれあい文化祭実行委員会	A	子どもたちの学びや創造の場として、積極的かつ有効な取組である。役割分担ができており、互いを理解し尊重し合っている。情報共有もできており、課題を解決しながら取り組んでいる。過去の参加者が当事業に関わることができる仕組みをつくることで、更なる発展が期待できる。	主役である子どもたちの結束、学びや創造の場としてだけでなく、他の地域の子どもたちや市民、職員との交流の場となっている。情報共有を行い、改善をしながら課題解決に取り組んでおり、実績がある事業である。エリアを越えたサークル発表など、更なる発展を期待したい。	過去の参加者が当事業に関わることで、職員や実行委員の負担軽減も図ることができるとともに、養成したリーダーによるサポート体制が機能することで更なる発展が期待される。	事業の継続と役割分担の明確化など、協働の視点が強く意識されているとともに、協働の蓄積や実績が、市全体の取組として具体化している。また、参加者だけではなく、事業実施者の達成感にもつながっており、事業成果という点でも素晴らしい取組となっている。	市内11か所の文化センターにおける小中学生の日頃の成果発表の空間を、エリアを越えて協働で作り上げており、非常に積極的な取組であるとともに、学びや創造の場として、とても有効な取組である。協働の視点も意識されており、毎回改善しながら取り組んでいる。参加者だけではなく、事業実施者の達成感にもつながっている取組である。	
			地域コミュニティ課							
3		武蔵府中熊野神社古墳まつり	武蔵府中熊野神社古墳保存会	A	お互いに役割を理解し、尊重し合い、協働事業を進めているとともに、古墳を地域の財産として理解し合いながら課題や目標の共有もできている。また、日頃から密に連絡を取り合っており、協働が浸透している。市の強みを活かして、教育機関への働き掛けなどを行うことで、より一層事業の発展が期待できる。	地域の歴史・文化を活用した事業であり、その必要性・重要性を市側・団体側ともに理解し、共有している。屋外の事業で、天候に左右されるという課題があるが、課題についても共有し、密に連絡を取り合い、対応している。	市や武蔵府中熊野神社古墳保存会会員のネットワークなどの強みを活かし、教育機関や団体、企業への働き掛けを進めることでより一層広がり可能性はある。	武蔵府中熊野神社古墳まつりの時だけでなく、密に連絡を取り合っており、良い関係が築けている。また、より多くの教育機関、団体、企業を巻き込むことで、伸びしろが大いに期待できる事業である。	お互いに尊重し合い、地域の財産として理解し合いながら、協働事業を進めており、府中らしさである歴史・文化が充分感じられる事業である。市側が団体の会議に毎回出席するなど、情報共有が積極的に行われており、今後期待できる。現状、西府圏域に留まっているが、教育機関と連携することで次世代を担う子ども達への広がりを生み出すなど、より一層の拡大を期待する。	
			ふるさと文化財課							

区分	協働事業等名称	事業実施者		1 評価結論		2 事業について	3 協働の広がり可能性	4 意見交換会を踏まえて	5 まとめ
		(上段：市民、下段：市)	結果	意見					
4	市民提案型協働事業 マイ・ベスト・チャレンジ! 2017 ～家族、友人、グループで記録に挑戦してみよう～	NPO法人手のひら健康バレー協会	B	時宜に適した事業であるが、双方が遠慮しがちである。役割を固定化せず、お互いの強みを理解し、いかし合うことで、スポーツ人口の拡大など更なる発展が期待できる。	高齢社会の到来に対し、幅広い市民の参加があり、今後ますますニーズが高まる事業である。運営ノウハウや経験を団体が蓄積しており、単独でも実施できるが、市の持つ知識の活用や会場のサポートなどの環境整備等で市と協働する意義がある。	多世代が関わることができる事業である。他課への働き掛けを市が行うことで、スポーツ人口の増加につなげていくとともに、体力・能力・年齢等に応じた市民の健康づくりなど、更なる協働の広がりに期待できる。	双方が遠慮しがちである。お互いに理解を深め、強みを共有することで、更に協働の可能性が広がる。	会場確保等、物理的な支援だけでなく、他課との連携など側面的な支援を行うことにより、更なる事業の広がりが期待できる。	
スポーツ振興課									
5	市民提案型協働事業 シンポジウム「もっと公園に行こう！」	ひな草の会	A	相互理解ができている。事業計画時から行程表を作成するなど情報共有を行いながら、共通の課題を認識し、今ある公園の課題解決や魅力ある公園づくりに向けて一体感をもって取り組んでいた。双方が多くの主体と接点をもつなど、多世代が関わることができる戦略をもつとともに、広い視野で事業を展開することで更なる広がりが得られることを期待する。	市立公園に限らない事例紹介や、パネリストとして行政が入ったことは評価できる。市民の気付きや知識の共有の場の提供につながった。ターゲット層としても、公園の役割等の啓発として集めたい人が集まった。地域特性をいかした魅力ある公園づくりの視点など、行政側が苦手としている視点をもつきっかけとなったことは協働の意義があるものである。	自治会や他課との連携など、より多くのステークホルダーとの協働を広げることで地域コミュニティの醸成や魅力的な公園づくりが達成できる。双方が多くの主体と接点を持ち、信頼関係を構築していくことを期待する。市立公園に限らず、都立公園等を含めた広い視野で事業を展開することで、市民の気付きや公園づくりへの参加の一步につなげていただきたい。	市立公園と都立公園など、市内には様々な公園があり、防災機能を有する公園もあるため、他課を巻き込むとともに、多世代が関わる戦略をもつことで更なる広がりを得ることができる。	双方が互いに課題を持ち、事業計画時から行程表を作成し、情報共有しながら取り組んでいた。多世代が関わるができるよう、継続的な取組を期待したい。	
公園緑地課									
6	行政提案型協働事業 市民協働啓発動画の制作	府中まちコム舎	B	団体と担当課とのコミュニケーションが取れており、多くの人を巻き込みながら協働を広く知らしめるよう工夫をしている。市として前例がないところに取り組むことができたことは協働の意義がある。完成した動画の活用方法について、ビジョンを明確にするとともに、具体的な内容を取り入れた今後を期待したい。	声優やキャラクター名の公募を行い、団体だけではなく多くの市民が参加の機会を得て、楽しく動画を作りあげている点が評価できる。協働の手法は双方理解されているため、成果としても双方がプラスとなるよう取り組んでほしい。協働という言葉が独り歩きしないよう、具体的な内容を取り入れながら今後を期待したい。	他部署のマスコットを動画の中に登場させるなど、部署を超えた横の展開があった。動画の活用について、他課のイベント等に積極的にアプローチするなど、更なる展開に期待したい。	協働への理解ができおり、情報共有の重要性を知っているからこそ、もう一歩先に期待したい。特に成果物の発表の場について、他課のイベントにアプローチするなど、市側の積極的な取組に期待する。	成果物の活用方法をより明確にし、具体的な内容とするなど、今後を期待したい。	
協働推進課									
7	行政提案型協働事業 ミニシンポジウム	NPO法人アビリティクラブたすけあい府中たすけあいワーカーズぼぼ	B	綿密な話し合いによる情報共有と相互理解ができている。互いに努力しながら協働の視点を持ち事業を実施しているが、集客に課題が残った。課題解決に向けた市側の積極的な取組や支援に期待したい。	ターゲットや目的の設定が難しい事業であるが、協働の視点を持ち、綿密な話し合いを行っていた。広報も互いに努力するなど、協働の意義がある。集客については課題が残ったため、テーマを精査するなど更なる工夫が必要である。	自分事としてまちづくりに取り組む人を増やせるよう、市内のネットワークを更に活用することで、更なる協働の広がりが期待できる。	目的は達成しており、連携もできている。参加者を増やすための方策を市側が積極的に行い、支援する必要がある。	相互理解ができおり、綿密な話し合いにより連携しながら事業を実施していた。結果を掘り下げるとともに、課題解決に向けた積極的な取組や支援を期待する。	
協働推進課									

※ 評価結果の定義

- A：協働事業として適切で優れていると評価できる。
- B：協働事業として適切であるが、一部改善することで、更なる発展が期待できる。
- C：協働事業として概ね適切であるが、一部改善の必要がある。
- D：協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。
- E：協働事業としては不十分であった。